

いのち
生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり

雲南市総合計画策定に向け

「雲南市総合計画素案」に関するパブリックコメントの結果(概要)

1. 意見募集した計画
総合計画素案
・第1章 序論 ・第2章 基本構想
・第3章 基本計画 ・第4章 地域計画
・第5章 計画の推進
2. 意見提出者
各種団体 2団体 市民 3名
3. 意見件数
各種団体 7件 市民 22件
4. 主な意見及びその対応 (一部抜粋)

計画名	意見内容及びそれに対する市の考え方
序	<p>①さまざまな場面で、「自然」という言葉がでるが、整理されないまま単に使われています。もう少し特定すべきでは。</p> <p>②自然とは、「ふるさと」がもっている森林や川などの自然景観と神話や神楽などの伝統文化、そして古くから受け継がれてきた生活様式などを育む自然の意味で使用しています。総合計画では、言葉の意味を場合によって使いわけおり、前後の文脈から判断をお願いします。</p>
論	<p>①「地域総合産業を創出する」とあるが、明確な方向性を示したほうがいいのでは。</p> <p>②地域総合産業とは、農業、商業の連携による特産品開発やこれらの業種や製造業とツーリズムとの連携など、幅広い意味での地域総合産業を示しています。なお、文章内容について、わかりやすい表現に修正します。</p> <p>③「生活空間の高質化に対するニーズ」とは何か。もう少し明確に説明できる言葉にしたがよいのでは。</p> <p>④自然との共生を考えた景観づくりや人々の暮らしを意図した表現とし書いていますが、わかりやすい表現に修正します。</p>
基本構想	<p>①定住環境施策、交流人口の拡大策として道路網(国道、県道)整備と松江道の無料化(又は減額化)に向けた検討をお願いします。</p> <p>②道路網の整備については、優先施策として積極的な事業展開を図っていきます。高速道路の無料化は、三刀屋木次IC以南は「新直轄方式」により整備され、料金は無料になります。宍道IC～三刀屋木次IC間については、現時点での無料化は難しいと思われませんが、今後、全線開通後の料金体系も含めた活用策について検討します。</p> <p>③市としてめざすべき産業分野は何か。また、建設事業分野からの異業種への転換対策は行政主導で図るべきでは。</p> <p>④今回の総合計画では優先プロジェクトを設けており、これは本市が持つ豊かな地域資源を活用し、産業振興等に波及する地域ブランドを育成していくものです。とりわけ、交流事業を主体にしたものであり、交流事業の産業化を図り、地域ブランドを確立し、地域振興を図っていきます。建設事業分野からの異業種への転換については、その実施にあたり支援します。</p> <p>⑤人口数については、少子高齢化を受け入れた厳しい数値上でのまちづくり構想があってもよいと思うが、高齢者が安心して暮らせるよう医療、福祉の充実と青年層の雇用、定住施策に重点をおいて具体的な施策として示して欲しい。</p> <p>⑥まちづくり会議の議論の中で、定住人口についてかなり議論し、最終的には現状維持である45,000人を目標値としました。本総合計画に基づく施策を展開し、45,000人の確保を図っていきます。また、医療、福祉の充実と青年層の雇用、定住施策については、優先プロジェクトに掲げている項目であり、積極的に施策を実施します。</p> <p>⑦協働とは、官民が目的や意識を共有し、それぞれの立場で最大限の力を発揮する状況や住民が自立して役割分担をすることだと思ふ。もう少し協働の意義について明確に表現をする必要があると思う。</p> <p>⑧指摘いただいた内容を踏まえ、協働の意義についてより明確な表現に修正します。</p>

計画名	意見内容及びそれに対する市の考え方
基本計画	<p>①世帯数について12,985 14,000と1,015世帯増やす計画であるが、そのためには住宅政策が不可欠であり、住宅新築戸数など具体的な数値目標が必要ではないか。</p> <p>②定住人口45,000人を実現するため、宅地造成や市営住宅の建設等、住宅政策について、本市の土地利用ビジョンを踏まえた「雲南市都市計画」を策定し、住宅の需要状況や本市の財政状況等を勘案し、計画的に取り組みます。なお、H17国調の確定値が示され、世帯数を12,990世帯に修正しました。</p> <p>③どこをみても、同和問題、同和対策等についての記述がなかったように思うが、どうなのか。同和対策に関する一切の法律が打ち切れ、一般対策に移行された。しかし、解決された訳ではなく、まだまだ課題は残っていると認識しているが。</p> <p>④同和問題、同和対策については、優先施策「平和と人権を尊重する社会づくりの推進」のなかで、「同和問題の早期解決」として挙げています。本市では、合併と同時に「雲南市人権センター」を立ち上げ、同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決に向けて、各種施策を進めています。具体的な事業内容については、この総合計画に基づき「人権施策推進基本方針」を策定し、この方針により同和問題に対処するための指針となる総合的な計画を策定します。</p> <p>⑤「商業の振興」の指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地のにぎわいづくり 売場面積 47,952㎡(現況値) 47,952㎡(めざそう値) ・商業環境の再構築 地元購買率 46.4%(現況値) 47%(めざそう値) <p>数値目標としてはプラスに設定し、より積極的な施策が望まれる。地域経済活動を活性化させるには、地域内での流動通貨を増やさねばならない。そのためには、特に地元購買率を上げる施策が重要となるのでは。</p> <p>⑥売場面積及び地元購買率の数値目標については、まちづくり会議のなかでも時間をかけて議論がされ、最終的には現状維持とされたところですが、しかしながら、ご指摘のとおり、地域経済の活性化には中心市街地のにぎわいづくりを進めていくことが重要であり、本市としましてもインターチェンジ周辺の整備や幹線道路網の整備、市街地整備などにより既存店舗の活性化及び新店舗の誘致などを進めていきます。よって、それらを踏まえ、数値目標について次のとおり変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 売場面積 47,952㎡(現況値) 50,000㎡(めざそう値) 地元購買率 46.4%(現況値) 50%(めざそう値)
地域計画	<p>①大東地域計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の捉え方が少しアバウトな感じがする。 ・もっと地域の特徴や独自性を表現し、若干の具体性が必要だと思う。 ・地域や地区の計画では一定の範囲で具体性がなければ実施計画や計画推進に向けての道筋をつけることが不可能では。 ・現状と課題、目指す方向そして目標から具体的な施策に向かう説明がされていないために短絡的な部分を感じる。もう少し流れの見える形があってもよいのでは。 <p>②今回、策定します地域計画は、各地域の個性と魅力ある地域づくりを進めるために、地域ごとの発展方向を示すとともに、施策の基本方向を明らかにしたものであり、市民の手で実現していく計画ではありますが、総合計画の性格上、具体的な事業までは明記しておりません。具体的な市民の行動に対して、行政として積極的に支援していきたいと思ふし、市民の皆様による今後の取り組みに期待します。</p>
計画の推進	<p>①「予算編成管理の強化」について、交付税削減等財源不足が見えている中、限られた財政を厳格に認識し持続的な市政運営を図る必要があるが、市が機軸とする最優先施策は何か。</p> <p>②本市の最優先施策は、「地域ブランド」を確立し醸成していくことで、定住人口及び交流人口の拡大、地域雇用の拡大を図っていきたくて考えております。なお、具体的な内容については今年度中に明らかにしていきたいと考えております。</p> <p>③「時代に即応する行政組織の構築」について、定員管理目標値が職員数584人だが、職員減＝経費減の発想は如何なものか、発想を変え新規職員の継続的採用、ワークシェアリング導入の検討、地区公民館の果たす役割増大に対し職員数の増員で対応する等、地域雇用の拡大策に市は率先し当たるべきでは。</p> <p>④本市では、平成17年度に行財政改革大綱及び実施計画である集中改革プランを策定し、行財政基盤の強化に取り組むこととしており、今後、厳しさを増す財政状況の中で効率的な行政運営に向けての取り組みが急務であり、とりわけ人件費の抑制を推進します。合併効果が最大限発揮できるよう定数の削減目標を定め、効率的な行政運営に努めます。</p>

パブリックコメントの結果は、雲南市ホームページ (<http://www.city.unnan.shimane.jp/>)、市役所政策推進課または各総合センターでご覧いただけます。